

令和6年度 住吉高校 第3回 学校運営協議会

出席委員(敬称略)

○協議委員 4名

大塚 耕司(大阪公立大学 教授)、中西 洋(大阪市立阪南中学校校長)

森田 英嗣(大阪教育大学 教授)、山内 憲之(PTA 会長)、

○学校側 11名

中山 (校長)、久堀 (教頭)、田仲 (事務長)、中川 (国際部長)、

三石 (進路指導部長) 杉本 (生活指導部長)、左 (教育相談)、

山田 (総務部長 司会担当)、山内 (記録担当)

1. 学校長あいさつ 中山 玲代

2. 大塚会長 ご挨拶

3. 今年度の本校の取り組みについて

(1) 本年度の学校経営計画について(中山校長)

○学校教育自己診断やアンケートの内容から自己評価を掲載

○令和7年度経営計画(案)の内容

・学力向上、授業改善⇒教科横断型授業

→STEPUPLABO が中心となった公開授業、ICT 推進委員会

・探究活動の手法を授業に活かす

・国際科学高校としての質的な深化⇒成果の普及・発信

→校内の学校説明会に生徒が参加、近隣小学校を校内行事に招待、数値目標

・自主自律を体現できる生徒の育成を追加

→自治会活動、部活動の自主的活動、挨拶・清掃・遅刻指導などの様々な指導

(2) 総合科学科の取り組み(稲木首席)

・文理融合型の1年目⇒探究フェスティバル

Go Beyond、ユネスコ、校内横断の3つのプロジェクト

星空教室などの近隣小学校との探究交流、高校生が出前授業

探究フェスティバルにベトナム、台湾、韓国が参加

四條畷高校、千里高校、台湾、ラオスが参加

・3年生の探究活動の計画を立てていく必要あり

(3) 国際文化科の取り組み(中川国際部長)

○国際文化科

- ・ LETS 合同発表会・ インターナショナルフェスティバルの実施報告
- ・ 第2 外国語で天理大学でのレシテーションコンテストで入賞
- ・ Super English や TOEIC、英語合宿など実施

○ユネスコスクール

- ・ 学校行事と重なり中国、韓国との交流に2年連続参加できていない
- ・ 6月のプライド月間のコラボ企画
- ・ 「韓国語を楽しもう」「話してみよう韓国語」で入賞者

○国際交流行事

- ・ 留学生4名を受け入れスタート（米2、独2）
- ・ 台湾の国立大学の紹介
- ・ 姉妹港との交流が充実

→ベトナムからの Phan Huy Chu 高校との交流が開始、中山女子高級中学との交流

- ・ 海外研修 SSH のハワイ、オーストラリア、韓国の訪問（チョンダムとは隔年）
- ・ 来年度はハワイ、オーストラリア、ベトナムの3箇所
- ・ 大阪グローバル塾 9名の生徒が参加
- ・ ケンブリッジ研修 参加者3名の事前研修中
- ・ ラオスの学生とのオンライン交流
- ・ 大阪マラソンボランティア、22名参加予定

○課題

- ・ オーストラリア来年度17歳以下のSNS使用が禁止になることを受け、連絡手段を探す必要あり
- ・ 交流先の提案に対応することもあり、国際部員の現状の人員では交流先の追加は難しい

(4) 進路指導部の取り組み（三石進路指導部長）

- ・ 7割の生徒が国公立受験をめざしている（出願）
- ・ あまり出願されていなかったような大学に出願が増えてきている（特に理系）
- ・ 新課程になった共通テストの平均は上がって、攻める気が強い生徒が多くなった
- ・ 大学についての調べる作業でいちいち検索エンジンに入力する
→予測が少ない
- ・ 3年生の赤本を借りに来ようとする生徒が多かった
- ・ 1・2年生でも借りに来る生徒が増えてきている

(5) 生活指導部の取り組みについて (杉本生活指導部長)

- ・遅刻指導 2200 件以下の目標で 2200 件くらいになりそう
→年度途中の急増に関しては課題が残る
- ・挨拶マナー指導 34 団体が参加 (昨年度 28 団体)
→中間評価は半分近くが「できた」と評価する団体
「続けていきたい」という感想が多くなっていて、良い流れ
- ・教員アンケート (昨年度とかわらず)
- ・スマホ指導について、報告数が少ないが、机の上に置くのは減った
- ・標準服の着崩しが減ってきている 詳細は指定していない (自主自立)

(6) 教育相談の取り組みについて (左教育相談委員長)

○S C

- ・1 日当たりの時間が 5 時間
- ・継続してカウンセリングを受けている生徒は最多で 12 回
- ・改善傾向がみられ、卒業に結び付く生徒もいる

○S S W

- ・育てにくさを抱えた保護者と親に不信感を抱えていた生徒がお互いのとらえ方の違いにより、すれ違いが改善されたケースもある

○支援教育コーディネーター

- ・年間 12 回の支援委員会やケース会議を開いた、進級や卒業の生徒もいる

○課題

- ・虐待やネグレクトなどに対して、自分が困っているということに気づいていない、発信してくれていないケース
→アプローチの仕方を考えている
- ・時間の効率化
- ・5 時間から 6 時間に変化する予定

4. 質疑・協議

○英語合宿 2 泊 3 日の詳細 (山内さま)

- ・160 名が大阪国際ユースホテルで新しいチームでディベート

○C E F R ・ B 1 → B 2 以上の生徒 (山内さま)

- ・入試のときにすでに英検を持っている状態で入学してきている生徒が多い

○令和 7 年度の目標、情報共有・発信は具体的にどのように? (森田さま)

→SSH（第4期）の成果が必要、大阪府私学の無償化に対して、公立高校の魅力を説明会では高校生が発表、近隣学校を招待して、取り組みについてしてもらい、ブログやInstagramでの情報発信

探究活動で、どのような探究活動を資料なども含めてすべて発信している

○カリキュラムオーバーロード状態と働き方改革（森田さま）

ユネスコスクールとSSHで重なっている内容もあるのではないかと考えるが、

1つのことを両方でカウントするというような工夫も必要になるのではないかと

→学科によって単位数が異なっていたものを統一、行事に関してはすでに学科で分かれていない状態なので、どちらの行事でも参加できる

○「情報」の追加でどのような影響？（大塚会長）

→読めばわかるような問題があるからいけるけど、専門的な知識が必要な場面があるようになるなら対策も早めていかないといけない

○外部の来客がある中で変化したということだが、探究フェス以外の例はありますか？（大塚会長）

→緊張感があったのか、これまでの会とは雰囲気は違っていた

→これが来客のないときにもできればいいですね

→コロナ前よりも聞き分けがよくなりすぎている？

○親子の不信感が解消されたという例からどのような分析（大塚会長）

子供が発信してくれたから、考えていることが分かって、解決への糸口を見つけられた親も子供のことを考えたうえでの様々な行動であったので、ギャップを埋めることができた

5. 校長謝辞

6. 今後の学校運営協議会の開催予定

第1回 令和7年6月日（木）15時30分～17時

第2回 令和7年10月（）

第3回 令和8年2月12日（）